

The image features seven circular wooden lacquerware pieces arranged in two rows. The top row has three pieces, and the bottom row has four. Each piece is inscribed with Japanese calligraphy in dark ink. The top-left piece has '萬世福' (Mansei Fuku) and '甲辰仲秋 万代' (Kochin Chūshū Mandai). The top-middle piece has '道心' (Michikokoro). The top-right piece has '葵' (Aoi). The bottom-left piece has '苑' (En) and 'つと' (tsuto). The bottom-middle piece has '木' (Ki). The bottom-right piece has '着' (Chō). The text '繋 (つなぐ)' is overlaid in white on the top-middle piece.

繋 (つなぐ)

～書との融合で木曾漆器を未来へ～

1年間の活動報告

1、1年間の活動内容

- | | |
|----------|---------------------|
| 5月31日 | ちきりや手塚万右衛門商店訪問 |
| 6月～8月 | 作品制作に向けた準備期間 |
| 9月12日 | 第1回講座 |
| 11月7日 | 第2回講座（zoomにて） |
| 12月5日 | 第3回講座 |
| 2月7日～11日 | 学生書道展にてプロジェクトの成果を展示 |



1、1年間の活動内容

【摺り漆作品の制作（右図上）】

- ・ 木目の美しさを生かした漆塗りの技法を実践し、各自好きな文字を揮毫した木皿を制作。



【豆皿作品の制作（右図中）】

- ・ 各自が考えた下絵を豆皿に転写し、色のついた漆で着色を施した豆皿を制作。



【学びの成果を発信（右図下）】

- ・ 学生書道展にて、実際に制作した作品と、本プロジェクトにおける概要や成果を展示。



2、第1回講座

【摺り漆作業①】

- ・木皿に、1回目の摺り漆を施した。
- ・高校生の皆さんは、初めて漆に触れる機会だった。

○大学生

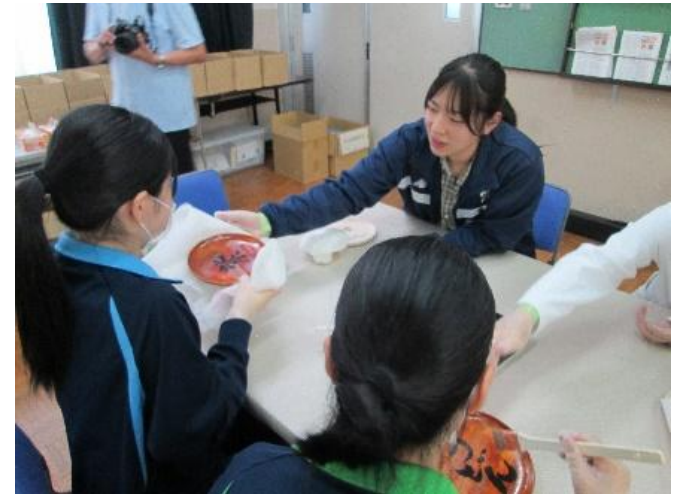
漆の専門家ではないので、
全てを教えることができる
わけではない。

- ・高校生と年齢が近いこと
・昨年自分たちが初めて摺り漆を経験した時の気持ちを思い出せること
という強みを生かしながら、
摺り漆の作業をサポート。

○高校生の皆さん

漆の存在をほとんど知らず、
漆を初めて見た生徒がほとん
どであった。

- ・初めての摺り漆作業に恐る恐る取り組む様子。
・漆独特の香りに驚く様子。
・摺り漆をしたことで生じるツヤに感動する様子。
が見られた。



3、第2回講座（zoomにて実施）

【摺り漆作業②・豆皿の制作①】

- ・木皿に2回目の摺り漆を施した。
- ・豆皿に下絵を描き、着色する準備工程を行った。

○作業の様子

- ・zoomを介しての交流ではあったが、高校生と大学生とが、互いの作業工程や作品を見せ合いながら活動を進めた。
- ・1回目の摺り漆作業と比べ、刷毛を「手早く」かつ「ムラ無く」動かす高校生の皆さんの手際の高さが見られた。

※課題点：zoomはグループでの活動が難しく、対面で協働学習を行った第1回・第3回と比べて、高校生の皆さんとコミュニケーションをとることができなかった。



↑ 銀粉を蒔いて下絵を浮かび上がらせる様子

4、第3回講座

【摺り漆作業③・豆皿の制作②】

- ・木皿に3回目の摺り漆を施した。
- ・下絵を描いた豆皿に、色漆を用いて着色を行った。

○作業の様子

- ・作品を鑑賞し合う中で、摺り漆を施した木目の色に個人差があることや、摺り漆の回数を重ねるとツヤが増すことに気が付く高校生の皆さんの様子が見られた。。
- ・豆皿に着色する際には、書道用の筆と比べて細い筆を器用に扱い、楽しそうに作業をする高校生の皆さんの様子が見られた。
- ・豆皿の制作は大学生も初めてであったため、高校生の皆さんと互いに工程を確認し合いながら作業を行った。



5、本年度の成果

○プロジェクト開始時における本年度の目的

①昨年度のプロジェクトを通して得た学びを次世代に発信する。

→昨年度の経験を基盤とし、高校生の皆さんをサポートできた。(B・C)

②漆と書道を融合させた作品を、高遠高等学校の生徒とともに制作する。

→漆と書道の両要素を兼ね備えた木皿の制作が実現した。(C)

③長野県の伝統文化・芸術である木曾漆器や蒔絵の保存や、次世代への継承に貢献する。

→漆の良さや技術について、高校生の皆さんに知ってもらうことができた。

(A・B)

5、本年度の成果

(青字…高校生の皆さんの感想シートより抜粋 黒字…大学生による感想)

【A 作品制作を通しての学びや気づき・技術の向上】

- ・ 三回の摺り漆を行い、最初よりもきれいに塗ることができるようになって良かった。
- ・ 漆を三回塗ると、初めよりも光沢がたくさん出た。
- ・ 塗った漆が乾くと色が変わるのが不思議だった。

- ・ 活動を重ねるにつれて、摺り漆を行う際の、高校生の皆さんの手際が良くなっている姿が見られ頼もしく感じた。
- ・ 昨年度制作した摺り漆の作品よりも、今回制作した木皿はより一層ツヤが増してきれいに仕上がった。


5、本年度の成果

【B 漆や伝統工芸についての学びや気づき】

- ・ 伝統工芸品に触れ、実際に自分で制作することで、新しいことに気付いたり学んだりできた。漆の歴史にも触れることができた。
- ・ 自分たちが昨年度学んだ技術を生かして、高校生の皆さんをサポートする立場として活動に参加したことで、漆器についての理解を深めることができた。

【C 共同で作業を行う中での学びや良さ】

- ・ 最初はどうもよくいか心配だったけど、大学生や講師の先生に教えてもらってうまくできたので良かった。
- ・ お互いの作品を見合う中で、摺り漆の色に個人差があることや、摺り漆の回数を重ねるとツヤが出ることを、実際に目で見て学ぶことができた。
- ・ 高校生の皆さんとコミュニケーションを取りながら作業を行い、昨年度よりも一層楽しく作品制作に取り組むことができた。



本プロジェクトを、
「Educational Challenge 2024」において採択いただくと同時に、
たくさんの方々からご支援を賜りました。
厚く御礼申し上げます。